



矢野 邦夫 先生

浜松市感染症対策調整監
浜松医療センター感染症管理特別顧問

'81年 名古屋大学医学部卒業。名古屋第二赤十字病院、名古屋大学病院を経て、'89年 フレッドハッチンソン癌研究所、'93年 県西部浜松医療センター（2011年4月より「浜松医療センター」に病院名変更）。'96年 ワシントン州立大学感染症科エイズ臨床、エイズトレーニングセンター臨床研修修了。'97年 感染症内科長／衛生管理室長、'08年 副院長、'20年 院長補佐、'21年4月より現職。

ホームページでも、公開しています。

メディコン CDCWatch

検索



2023
October

286

株式会社メディコン

RSウイルス感染で入院した60歳以上の成人の特徴と転帰

RSウイルス（RSV：RS virus）は高齢者において重篤な合併症を引き起こすことがある。そして、RSVワクチンの接種を促進するためには、どのような高齢者が重症化しやすいかを明らかにすることが大切である。CDCがRSV感染で入院した60歳以上の成人の特徴と転帰について記述しているので紹介する（1）。

はじめに

- RSVは高齢者に重大な罹患率と死亡率をもたらし、65歳以上の成人では年間約6～16万人が入院し、6,000～10,000人が死亡している。
- 2023年5月、米国食品医薬品局（FDA：Food and Drug Administration）は、60歳以上の成人におけるRSV下気道疾患の予防のために2種類のRSVワクチン〔註釈〕を承認した。
- 2023年6月、CDCは患者と臨床医の間の「臨床上の意思決定（clinical decision-making）」を共有することによって、60歳以上の成人にRSVワクチン接種を推奨した。
- 重症RSV疾患のリスクが最も高い成人は、ワクチンの恩恵を受ける可能性が最も高いので、ワクチン接種を優先する必要がある。

調 査

- RSV関連入院監視ネットワーク（RSV-NET：Respiratory Syncytial Virus-Associated Hospitalization Surveillance Network）は、米国人口の約9%をカバーする12州※、58郡の約300の病院でRSV関連入院に関する人口ベースのサーベイランスを実施している。
- RSV-NETは入院中または入院前の14日間にRT-PCRまたは迅速抗原検出検査のRSV検査結果が陽性で入院したネットワーク対象地域内の人々を特定している。

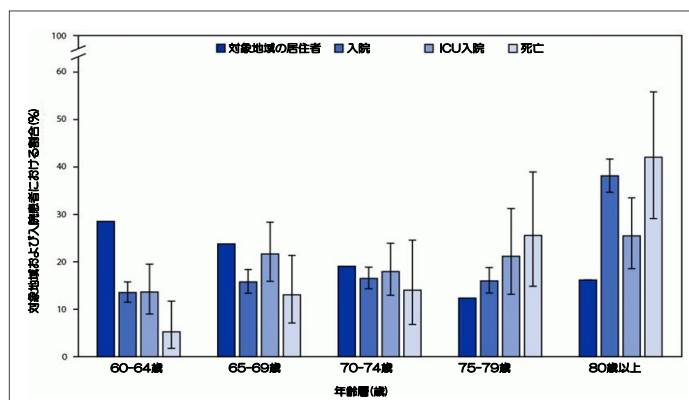
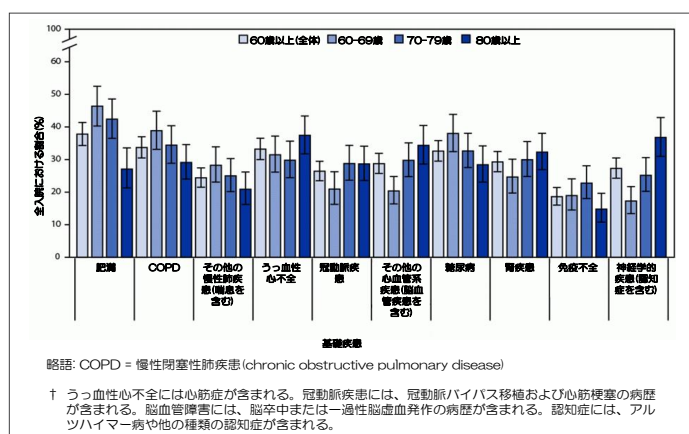
※カリフォルニア州、コロラド州、コネチカット州、ジョージア州、メリーランド州、ミシガン州、ミネソタ州、ニューメキシコ州、ニューヨーク州、オレゴン州、テネシー州、ユタ州

結 果

- 2022年7月から2023年6月までにRSV関連入院が確認された60歳以上の成人3,218人のうち、合計1,738人（54.0%）が75歳以上であった。
- RSV関連入院のうち60～64歳と80歳以上の患者はそれぞれ、434人（13.5%）と1,208人（37.5%）であった。患者の年齢中央値は75歳（IQR=68～84歳）であった。
- 2022年10月から2023年4月までに入院した60歳以上の成人1,634人をランダムに抽出し、カルテを精査したところ、54.1%が75歳以上で、290人（17.2%）が長期介護施設の入居者であり、それには80歳以上の人のうち175人（26.9%）が含まれていた。



- ほぼすべての患者(1,553人[95%])において、SARS-CoV-2検査結果を入手可能であり、そのうち39人(2.4%)が陽性であった。そして、1,587人(97.1%)がインフルエンザ検査を受け、そのうち23人(2.2%)が陽性であった。
- 重篤な転帰の有病率は、RSVのみが検出された患者と比較して、ウイルスが同時検出された患者では高くなかった($p>0.5$)。
- かなりの割合の患者(332人[18.5%; 95% CI=15.9%-21.2%])が少なくとも1つの重篤な転帰を経験しており、その中にはICU入院が297人(17.0%)、人工呼吸器が94人(4.8%)、入院中に死亡が98人(4.7%)含まれている。
- サンプルされたほぼすべての患者(1,584人、95.5%)は少なくとも1つの基礎疾患を有しており、最も多かったのは肥満(37.8%)、慢性閉塞性肺疾患(COPD)(33.7%)、うっ血性心不全(CHF: congestive heart failure)(33.2%)、糖尿病(32.6%)であった。そして、18.6%が免疫不全状態にあった(図1)。
- 下記の基礎疾患は、重篤な転帰を伴わない患者よりも重篤な転帰を伴う患者において有意に多かった: COPD (40.0% vs 32.0%; $p=0.047$)、他の慢性肺疾患(COPDおよび喘息を除く)(9.1% vs 4.4%; $p=0.04$)、CHF (41.2% vs 31.4%; $p=0.01$)。
- 75~79歳と80歳以上の成人はネットワーク対象地域の人々のそれぞれ12.4%と16.2%を占めたが(図2)、彼らは入院の16.0%(95% CI=13.5%~18.8%)と38.1%(95% CI=34.7%-41.7%)、ICU入院の21.2%(95% CI=13.2%-31.3%)と25.5%(95% CI=18.6%-33.5%)、院内死亡の25.6%(95% CI=14.8%-39%)と42.1%(95% CI=29.1%-55.9%)を占めていた。



考 察

- 2022年7月から2023年6月にかけて、大規模な人口ベースの監視システムにおいて、60歳以上の成人のRSV関連入院は、主に75歳以上の人々(54%)で発生した。そして、これらの患者の多く(17.2%)は長期介護施設に入所していた。
- SARS-CoV-2とインフルエンザの包括的な検査にもかかわらず、RSV-NETで報告されたウイルスの同時感染は稀であり、RSV単独がこの集団でかなりの罹患率と死亡率を引き起こしていることを示している。
- 入院患者における基礎疾患の有病率は高く、それにはCHFとCOPDが含まれている。それらの両方を併存することは重症の結末に不釣り合いに関連していた。ある研究によると、COPD(65歳以上)とCHF(60~79歳)の高齢者は、それらの疾患を持たない高齢者と比べて、RSVによる入院率がそれぞれ3.5~13.4倍、5.9~7.6倍高かった。
- RSV-NET入院者の中でLTCF入所者の大部分が占めていることは、この集団が施設内でのアウトブレイクに対して脆弱であることを実証する文献とも一致している。
- RSV関連の重症疾患を防ぐために、RSVワクチン接種に関する臨床上的意思決定の共有においては、年齢(特に75歳以上)、LTCF居住者、基礎疾患(COPDやCHFを含む)を考慮する必要がある。

[文献]

1. Havers FP, et al. Characteristics and Outcomes Among Adults Aged ≥ 60 Years Hospitalized with Laboratory-Confirmed Respiratory Syncytial Virus — RSV-NET, 12 States, July 2022–June 2023
<https://www.cdc.gov/mmwr/volumes/72/wr/pdfs/mm7240a1-H.pdf>

[註釈] RSVPreF3 (商品名: Arexvy, GSK) およびRSVpreF (商品名: Abrysvo, Pfizer)

[註釈1] 註釈の製剤のうち、RSVpreF (商品名Abrysvo pfizer) 日本では高齢者対象には未承認です。

株式会社メディコン

〒530-0002 大阪府大阪市北区曽根崎新地1-13-22

カスタマーサービス Medicon-web@bd.com

crbard.jp

